

## 広がる絵本の世界

菅谷 泰枝

柳田先生、お元気ですか？お変わりありませんか？

私は、相変わらずに毎日、家事や仕事、育児に忙しくて、一日があつという間です。でも、このお手紙を書くことができて良かったです。

娘の泰充は、六歳になりました。泰充は年を追うごとに、おてんばに磨きがかかり、おしゃべりもにぎやかで活発な子に成長しています。習慣となつた夜寝る前の絵本の読み聞かせは大好きな時間で、自分で絵本を用意すると、今でも私の膝の上に乗って抱っこで聞いています。寝る前の準備が

遅くなると、絵本の時間がなくなってしまつので、大急ぎでパジャマに着替えて歯磨きやトイレを済ませて、「準備完了！」と布団の上で絵本を用意して待っています。何回も読んでいる絵本はもう物語のあらすじをすっかり覚えてしまつていても、毎回じつと耳を澄まして聞いています。

ところで、柳田先生に是非、報告したい発見があつてお手紙しました。

それというのも、最近の泰充のお気に入りの場所に『本の図書館』が仲間入りしたことです。今までは、なかなか静かに過ごすことができなかったのですが、『おもちゃの図書館』には連れて行つても、『本の図書館』には連れていくのをためらっていたのです。公共の場での過ごし方のルールを守れるようになってきたので、約束を確認してい

よいよ『本の図書館』デビューをしました。

すると、目を輝かせて子供の本のフロアに直行して行き、マットが敷いてある紙芝居のコーナーを見つけると、さっさと靴を脱いでマットに上がって、そこをちゃっかり自分の居場所にしてくつろぎ始めました。早速、棚から紙芝居枠と気に入った紙芝居を取り出して紙芝居をお願いされました。いつもの絵本とは違う場面の展開で楽しそうに見て、聞いていました。そのうち、自分でも読める短い紙芝居を探して、セリフの読み方や紙芝居枠からの引き抜き方も工夫した演出で私に紙芝居を見せてくれました。私の真似をして紙芝居の間にアドリブを取り入れたりもしています。図書館に行くたびに、紙芝居が定番になりました。

図書館では、『外国語のお話し会』もあり、その

時間もお気に入りになりました。英語で絵本を読んでもらい、その後にもまた日本語で同じ絵本を読んでもらいます。泰充は、英語は全く分からないのですが、読んで下さる方の目の前に座って絵本に注目して聞いています。絵本の挿絵や読み聞かせの口調でなんとなくストーリーが分かるようで、場面に合った感情でドキドキ、ワクワク楽しそうに笑ったり、驚いたり、悲しそうになったりして聞いています。英語で言葉が全く分からなくても、絵本の挿絵や読み聞かせの口調で想像して絵本の世界を感じ取れることに驚きでした。同じ絵本を日本語で読みなおしてもらうと、自分が想像していた内容を再確認しているようで、イメージが重なることについても嬉しそうで、より絵本の世界に深く入っているみたいでした。英語の歌や手遊びも

あつて、楽しい時間になっています。

育てを実感しています。

この『外国語のお話し会』は、実は私もお気に入りの時間になっています。日常では大人の私が読み聞かせてもらうことはほとんどないので新鮮な感覚で、泰充と並んで座って同じようにドキドキワクワクしながら聞いています。泰充は子供に帰ったような私にまるでお友達のように接してくれます。それに普段は英語を話しているのを生で聞いたり、外国の文化に触れることはほとんどないので、楽しく英語に触れ合えて、読み聞かせもしてもらえてとても嬉しい時間になっています。

今までとは違う形で絵本に触れ合う機会が増えたことで、これから更に親子で絵本の世界がもっと広がりそうです。お互いに心の世界が共有でき、より絆が深まったようです。絵本での子育て親